

Wyandotte Komaki 2026



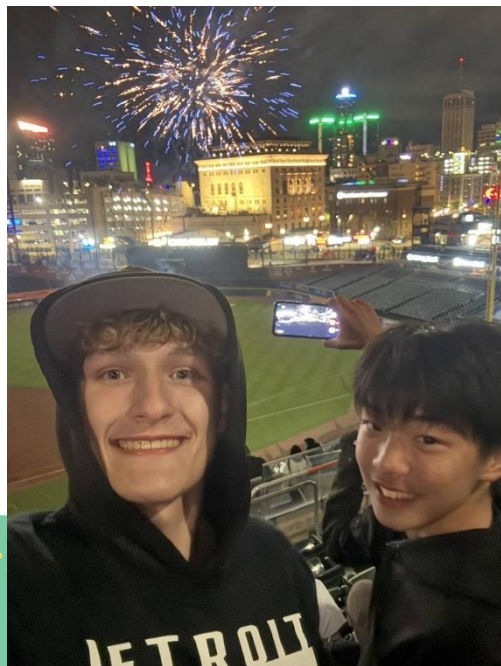
派遣行程

4月29日	小牧市出発、名古屋駅から品川駅へ 羽田空港からデトロイト空港へ ワイアンドット市到着 ホームステイ開始
4月30日	ワイアンドット市役所表敬訪問 ワイアンドット市内見学 ピザ・カップケーキ作り体験 ホームステイ
5月1日	学校体験 野球観戦 ホームステイ
5月2日	Greenfield Village訪問 ヘンリーフォードミュージアム見学 ホームステイ
5月3日	ホストファミリーと過ごす フェアウェルパーティ ホームステイ
5月4日	ホストファミリーとお別れ デトロイト空港から羽田空港へ 機内泊
5月5日	羽田空港から中部国際空港へ 小牧市到着

あの日の思い出

2年 奥 琉叶

僕はこのワイアンドット市への派遣授業でたくさんの経験や学びを得ました。ワイアンドット市へ行く前日の日には、ドキドキとワクワクで眠れませんでした。そして翌日、家族と離れて1人で海外で生活するという事にとっても不安を抱きました。アメリカの空港に到着すると、日本とはとても違う雰囲気だったり、警備がガチガチでちょっと怖いところもありました。ハンバーガー屋までバスに乗り向かうのですが、そのバスも日本とは大違いで、ちょっと高級感あったり、バスのシートが少し硬い感じもしました。バディと初めて会った日はとても印象に残っています。僕のバディは見た目からしてちょっとイカつい感じがした。だけど喋ってみるとお互いの好きな物が同じだったり、家族の写真を見せあったりと最初から楽しい時間を過ごしました。バディの家に初めて入った時は緊張したけど、バディの家族はとても優しく、元気に出迎えてくれました。そして大型犬や猫などのアメリカで生まれた動物たちとも触れ合いました。家族のみんなに家の中を紹介してもらい日本とは違う家の形や設計でした。2日目はワイアンドットの市役所に行き、そこで働いている人の裏側を見ました。庭はバスケットボールが置いてあり、そこでバスケットをできるぐらいの広さでした。自分のオフィスが可愛くおしゃれに物が飾られていたり、アメリカでは仕事場を自分が落ち着く場にしたりと工夫をしていました。ワイアンドットの市長さんとその秘書そしてその偉い人たちと会話を楽しみながら、昼食を食べました。その後市長さんたちをお別れし、アイスホッケー場でみんなでスポーツを楽しみました。



あの日の思い出

2年 奥 琉叶

みんなで遊び疲れ終わった後、ピザを作るという貴重な体験をさせてもらいました。何回もこねて柔らかくし、その上に材料をのせ焼きました。自分で作ったピザはとても特別に美味しく感じました。その日の、夕方にアメリカで有名なショッピングモールに行きました。日本とは内装が少し似ていた所が所々にあった部分もあるし、フードコートみたいな所がない、日本とは違ったところもありました。バディの車はスポーツカーで、ものすごい勢いで道路を走ったあの時は最高の瞬間でした。約6日間ホームステイ、アメリカで過ごして、アメリカの学校はクラスがなく、授業ごとに生徒が変わっていくことや、生徒たちは非常にノリが良く気軽に話しかけてくれることが多いことや、ショッピングモールやフード店などのお店は日本と違った点もあったり、日本とは味わえないことなどいろいろな経験や体験をさせてもらいました。バディとお別れする時は、一緒に過ごした思い出が振り返ってきて、寂しく、悲しくなりました。最後にハグを交わして、お別れしました。バスに乗ってる時には何回もバディとの思い出の写真を振り返りました。一緒に車を乗りながら、爆音で音楽を聞きながら猛スピードで走った道路、アメリカでとても有名なクッキーを笑いながら食べた時、そして一緒にボーリングをして、ジャンプして喜び合った日、約六日間の思い出を思い出すと涙が出てきます。バディと過ごした時間はとても、とても楽しかったです。このような貴重な体験や経験をさせてくれた、小牧市や、現地で支えてくれた人たち、そしてバディの家族、友達など全ての方々に心から感謝しています。留学で得た自信をこれからの学校生活で生かしていきたいと思います。



忘れられない一週間

2年 蛸原 凛香

私はこの派遣事業に参加する前に、「文化の違い」「英語でコミュニケーションをとる」「アメリカで友人を作る」の三つを目標にしていました。

文化の違いで特に驚いたことは、アメリカの食べ物や建物の大きさです。ハンバーガーは日本で食べるものよりもはるかに大きく、アイスクリームも日本でいう大盛りほどの量がありました。また、道路や車、家、ショッピングモールなども日本より大きく、初めて見るものばかりで驚きました。さらに、日本の食べ物大きさについてホストファミリーとたくさん話したことも思い出です。

また、甘い食べ物の味の基準や食事、街のつくりなど、さまざまな違いを実際に体験することができました。ホストファミリーや友達に日本から持って行ったお土産を渡したとき、とても喜んでくれたことも忘れられません。日本のお菓子を学校に持って行った際には、みんなが喜んで食べてくれ、あっという間になくなったことも良い思い出です。さらに、アメリカの人たちはとてもユニークで、ジョークを言って周りを笑わせたり、どんな場面でも楽しもうとしたりする姿が印象的でした。その明るさや前向きさのおかげで、私も自然と笑顔になり、寂しさを感じることはありませんでした。



忘れられない一週間

2年 蛸原 凛香

「英語でコミュニケーションをとる」「アメリカで友人を作る」という目標も達成することができたと思います。自分から積極的に話しかけることを意識したことで、たくさんの人とコミュニケーションをとることができました。バディの友達には日本語を教えたり、漢字で名前を考えたりして、日本とアメリカの文化を交えた交流もできました。また、バレーボールやテニスの試合を見に行った際にはチームメイトとも話すごとができ、交流の輪を広げることができました。ワイアンドットの人たちは、「日本から来たよ」と伝えるととても興味を持ってくれて、「写真を撮ろうよ!」「この日本のアニメが好きなんだ!」と話しかけてくれることもあり、アメリカの人たちの温かさを感じました。

バディやその友達、一緒に参加した人のバディとも仲良くなり、多くの友達ことができました。連絡先も交換し、帰国後の今でも体育祭や部活動の大会の写真を送り合ったり、近況を報告し合ったりしています。離れていても交流が続いていることがとてもうれしいです。

今回の経験を通して、私は人に話しかけることへの恥ずかしさが少なくなりました。ワイアンドットでは、発音が間違っても笑う人はいませんでしたし、より自然な発音を優しく教えてくれました。分からないことは聞き返し、それでも理解できないときだけ翻訳を使うようにしたことで、自分から伝えようとする大切さを学びました。私は今ある環境が当たり前ではないということも学びました。日本では当たり前だと思っていた食べ物や生活習慣、学校生活も、国が違えば大きく異なります。実際にアメリカで生活したことで、自分が普段過ごしている環境のありがたさや、日本の良さを改めて感じるすることができました。

この経験をこれからの生活にも生かしていきたいです。そして、もっと英語を勉強して、いつかまたホストファミリーや友達に会いに行きたいと思います。たとえ会いに行くことが難しくても、将来は英語を使う職業に就き、今回学んだことや出会った人たちとの思い出を大切にしながら、国際交流に積極的に関わっていききたいです。



ワイアンドット市へ行った感想

2年 佐伯 古都

ワイアンドット市に行って、たくさんを知りました。まず、アメリカと日本の文化の違いがよくわかりました。初めに、ワイアンドット市の中学校に行って、授業に参加してみて、日本の中学校とは違うところがたくさんありました。アメリカの中学校には、クラスという概念がおそらくないのだろうと思いました。授業は毎回違う生徒と受けていて、一つのクラスでメンバーが決まっているのが日本の一般的な学校ですが、アメリカでは、決まったクラスがありませんでした。他には、食文化の違いが大きかったです。滞在している間にハンバーガーやフライドチキン、ピザなど、たくさんの物を食べました。日本のものよりもボリュームで、味が濃い目でおどろきましたが、どれもこれも美味しかったです。それに、日本ではあまり食べられないターキーがサンドイッチに使われていて、アメリカらしさが感じられました。また、街の風景を見ていると、日本とは全く違うことがたくさんありました。建物や住宅一つとっても日本ではあまり見ないようなものがたくさんあって、面白かったです。

ホストファミリーも学校の友達も、ワイアンドットの人々はとてもフレンドリーに接してくれました。積極的にコミュニケーションをとってくれたり、日本語を調べて使ってみたりと、とてもよくしてくれました。私は人とコミュニケーションをとることが苦手で、自分から話しかけることが苦手です。ですが、ワイアンドット市の中学校ではバディの友達が積極的にコミュニケーションをとってくれて、色々質問をしてくれました。自分からも頑張って話してみたり、英語で全て会話することは難しくても、翻訳機を使って話すことで、楽しく過ごすことができ、仲良くすることができました。わからないことを聞いてみても嫌な顔一つせず答えてくれて、とても安心ができて、ありがたかったです。

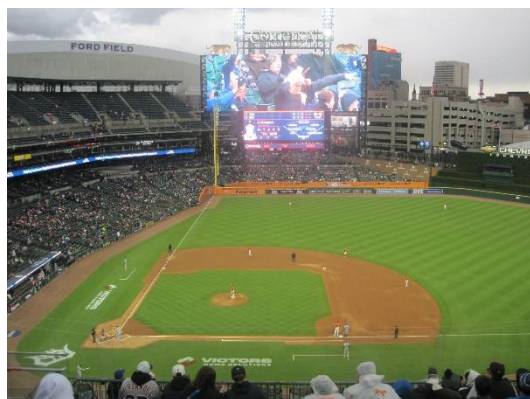


ワイアンドット市へ行った感想

2年 佐伯 古都

ホームステイ先では、バディにお土産を渡したとき、大好きだというキティちゃんのぬいぐるみや日本のお菓子を、とても喜んでくれて嬉しかったです。また、ホストマザーもバディの子も、私のことを快く受け入れてくれ、心配してくれたりしました。家で、バディと一緒に映画を見ているときには、一緒に笑って、楽しむことができました。ホストマザーは何かを聞いた時にも笑顔で答えてくれました。ホストファミリーと一日一緒に過ごす日には、デトロイトのダウンタウンというところに連れて行ってくれて、突き出された拳などの彫像を見ることができたことや、一緒にアイスクリームを食べたりして、楽しかったです。バディやホストマザー、一緒に行ったバディの友達の子とも色々話せて、バディとバディの友達とは仲良くなることができてとても良かったです。フェアウェルパーティーでは、個人の出し物のピアノで少しミスをしてしまったのですが、よかったと言ってくれて、うれしかったです。また、フェアウェルパーティーでお菓子を箸でつかんで皿に移すゲームをしたときには、楽しんでくれました。

ワイアンドット市派遣事業に参加して、アメリカと日本のたくさんの文化の違いを知ることができたり、英語でコミュニケーションをとってみたいと努力することができました。また、コミュニケーションの大切さなども学びました。今後はこれらの経験を生かしていきたいと思います。



ワイアンドット市中学生派遣事業の思い出

2年 余語 晃希

僕は、派遣事業に参加し、たくさんの、思い出に残る出来事がわかりました。その中でも、とても思い出に残った出来事を、3つ紹介します。

まず一つ目は、市の案内です。

その中でも、市役所の案内は、市長さんや市役所の職員さんたちが笑顔で歓迎してくれて、美味しそうなフルーツや、マフィンなどが並んだ、バイキングでおもてなしをしてくれて、お土産も、たくさんもらいました。他にも、仕事内容の説明や、市で起こった出来事を丁寧に教えてくださりました。

二つ目は、学校体験です。

僕が行った学校は、日本と違い、高校と中学校が同じ敷地内にあり、日本の数倍でかいグラウンドだけでなく、観戦場で囲まれた、ラグビーグラウンドもありました。また校内は、全ての教科は、移動教室で、朝礼を行ったりするクラスが、ありませんでした。でも、給食は、食堂があり、ほぼみんなが食堂で、ピザや、ブリトーなど、選んで食べていました。



ワイアンドット市中学生派遣事業の思い出

2年 余語 晃希

三つ目は、ホストファミリーたちとの交流です。

初日、ファミリーたちが歓迎してくれるかな？と不安でしたが、初めてファミリーと会った時、たくさん話してくれたり、時差大丈夫？や、不安じゃない？など気を遣ってくれて、一気に不安や、緊張が消えました。また、シャツや、ニット帽、水筒など、たくさんのお土産をもらい、とても、嬉しかったです。そして、休日には、メキシコシティという、メキシコ文化が感じられる街や、目の先にカナダが見えるデトロイトにも連れて行ってくださりました。最終日、家族みんなでお見送りや、写真を撮ったりして、いい、締めくくりになりました。

僕は、この経験を通して、外国人と本格的に交流できたことで、英語に興味を持ち、話したいという意欲が湧いてきて、とても思い出になる体験になりました。また、来年も、この中学生派遣事業に応募して、バディに会ったり、ワイアンドットに行きたいです。

最後に、派遣事業の機会を下さった小牧市の皆様と、歓迎して下さったワイアンドットの皆様に心より感謝申し上げます。



アメリカでの五日間の生活を通して学んだこと

2年 島津 悠

僕は、ゴールデンウィークにアメリカのワイアンドット市へホームステイに行きました。出発前は英語が通じるか不安でしたが、とても楽しく、たくさんのことを学ぶことができた1週間でした。

アメリカに到着して最初にうれしかったことは、久しぶりにバディと再会できたことです。

前に会ったときよりも成長していて、また会えたことが本当にうれしかったです。ホストファミリーも温かく迎えてくれて、安心してホームステイを始めることができました。

夕食では本場のハンバーガーを食べ、日本との違いを感じました。

市内見学では、市役所や裁判所を訪問しました。普段はなかなか入ることのできない場所を見ることができ、とても貴重な経験になりました。市役所では歓迎していただき、ワイアンドット市について学ぶことができました。

また、買い物にも行き、日本ではあまり見ない商品や大きな店がたくさんあり驚きました。公園も広くて自然が豊かで、日本との違いを感じました。

学校体験では、現地の生徒たちと一緒に授業を受けました。最初は緊張していましたが、みんながとてもフレンドリーで優しく接してくれたので、すぐに打ち解けることができました。積極的に話しかけてくれる人が多く、英語が完璧ではなくても会話を楽しむことができました。授業中の雰囲気も日本とは少し違い、生徒たちが自分の意見をしっかり発表していることが印象に残っています。また、休み時間にはたくさんの人と交流することができ、とても楽しかったです。



アメリカでの五日間の生活を通して学んだこと

2年 島津 悠

今回のホームステイの中で特に印象に残っているのは野球観戦です。僕は、野球部に所属していて野球が大好きなので本番のメジャーリーグを観戦できた事がとても嬉しく興奮しました。



球場はとても大きく、会場全体が盛り上がっていました。日本の野球とは応援の仕方や雰囲気の違い、新鮮に感じました。観客みんなが楽しんでいて、スポーツを観るだけでなくイベントとして楽しんでいるように思いました。試合の後には花火が打ち上げられ、その迫力に驚きました。日本でも花火を見ることはありますが、とても近くで見ることができ、音や光が体に響くほどで忘れられない思い出になりました。

また、グリーンフィールドヴィレッジではアメリカの歴史や昔の暮らしについて学びました。歴史的な建物や乗り物を見ることができ、教科書だけでは分からないことを実際に体験しながら学ぶことができました。

ホストファミリーと過ごした時間も大切な思い出です。一緒に食事をしたり出かけたりして、アメリカの家庭での生活を体験することができました。外食をする機会も多く、日本とは違う料理や量の多さに驚きました。英語での会話は難しいこともありましたが、分からないときは聞き返したりジェスチャーを使ったりして、相手に伝えようと努力しました。その結果、少しずつ自信を持って話せるようになったと思います。

帰国の日にはホストファミリーやバディとお別れをしました。とても寂しかったですが、「また会おう」と約束することができました。短い期間でしたが、本当の家族のように接してくれたことがとてもうれしかったです。



今回のホームステイを通して、アメリカの文化や生活の違いを実際に体験することができました。また、英語は完璧でなくても積極的に話そうとすることが大切だと学びました。久しぶりにバディと再会できたこと、学校でたくさんの人と交流できたこと、野球観戦や花火を楽しめたことなど、どれも忘れられない思い出です。この経験をこれからの英語学習や学校生活に生かしていきたいと思います。

僕はワイアンドット市を訪問し、約一週間、驚きがいっぱいで楽しい毎日を過ごしました。

ワイアンドット市に滞在の間は、ホームステイで、バディと家族のホストファミリーと一緒に過ごしました。バディと初めて会ったときはとても緊張しました。でもバディから話しかけに来てくれて、たくさんコミュニケーションをとることができました。バディの家族はとても温かい人たちで優しく受け入れてくれて、とても嬉しかったです。

アメリカは車が右側通行で驚きました。ワイアンドット市の道路は道幅が日本と比べてとても広かったです。日本はくねくね道や斜めに曲がる道がありますが、ワイアンドット市はほとんどがまっすぐでした。日本とワイアンドット市では違うところがたくさんあり、街を歩いているだけで初めて見るものがたくさんありました。はじめは、英語がわからなくて翻訳アプリばかり使って話していました。しかし、翻訳を使う機会が減っていき、最後は英語で人と会話することができてとても嬉しかったです。

アメリカでの食べ物は想像していた何倍も大きかったです。アメリカは朝食、昼食、夕食の全部が大きいと思っていましたが朝食はあまり食べなくてバナナ1本の日もありました。ですが昼食と夕食はとても多かったんです。夕食に連れて行ってくれた時、フィッシュ&チップスを食べたのですが、量が多すぎて食べきれませんでした。ただ、外食で食べきれなかった場合は、持ち帰ることが可能なお店が多かったので、無理に全部食べる必要はありませんでした。毎回、食事が楽しみでした。



ワイアンドット市の市役所は日本の市役所とは全く違いました。市役所の職員さんたちはみんな、優しくて明るかったです。市役所が大きかったことにも驚きました。しかし一番驚いたのは職員さんたちの部屋です。職員さんは自分の部屋の棚に、自分の好きなものを置いていました。家族の写真やマスコットなど。なので部屋はその人ごとに雰囲気違っていました。

ワイアンドット市の方々はとにかく優しく、明るくて、あたたかく歓迎してくれました。市役所の方々、ホストファミリーの親戚や知り合い、学校でできた友達、すべての人たちが笑顔で挨拶してくれたり、話しかけてくれたりします。とてもフレンドリーですぐに仲良くなることができました。バディも親切にしてくれて、特にホストファミリーが最後に『あなたは私たちの家族です』と言ってくれて本当に嬉しかったです。

僕は、ワイアンドット市の派遣事業に参加することができて、本当に良かったと思います。たくさんの人と交流をして、コミュニケーションをとることでワイアンドット市の良さをたくさん知ることができました。ワイアンドット市で過ごしたすべての出来事が、かけがえのない思い出になりました。これからもワイアンドット市と小牧市の交流が続いてほしいと思いました。



ワイアンドットに行って感じたこと

3年 松下 美月

私が今回の派遣事業に参加した理由は、日本とは違う世界を自分の目で見て、現地の人々と直接関わってみたいと思ったからです。

出発前は、英語がちゃんと通じるだろうか、現地の生活に馴染めるだろうかという不安でいっぱいでした。

ですが、アメリカで過ごした時間は、私の今までの視野を大きく広げてくれる、一生忘れることのできない経験となりました。

アメリカに到着して最も嬉しかったことは、現地の方々と直接言葉を交わし、コミュニケーションを取ることができたことです。最初は緊張して上手く言葉が出てきませんでしたが、こちらが伝えようと一生懸命になると、現地の皆さんはとても温かく笑顔で耳を傾けてくれました。学校で勉強してきた英語が、実際の生活の中で通じた瞬間の喜びは言葉にできないほどでした。言葉の壁を恐れずに、まずはジェスチャーを交えながらも話しかけてみることの大切さを、身をもって学ぶことができました。

現地での生活や学校生活を体験する中で、日本とアメリカの文化には驚くほどたくさんの違いがあることに気がつきました。特に印象的だったのは、音楽の授業です。日本の音楽の授業といえば、クラス全員でリコーダーや鍵盤ハーモニカなど、みんなが同じ楽器を持って一斉に練習するのが一般的です。しかし、アメリカの学校では全く違っていました。教室内にはドラムをはじめ、本当に多種多様な楽器が用意されており、生徒たちがそれぞれ自分の好きな楽器を選んで自由に演奏を楽しんでいたのです。みんなが同じことをするのではなく、一人ひとりの個性や好みを尊重し、それぞれが違う楽器を使って一つの音楽を作り上げていくことに、アメリカらしい自由な文化の魅力を強く感じました。



ワイアンドットに行って感じたこと

3年 松下 美月

また、今回の派遣の中で、バディの子との絆が一番深まったと感じた特別な場所があります。それは、一緒に出かけた現地のゲームセンターです。それまでも色々な話をしていましたが、ゲームセンターで一緒に大はしゃぎしながら遊んでいるうちに、お互いの緊張が完全にほぐれていきました。言葉だけでなく、同じゲームを楽しんで笑い合う中で、バディの好きなことや性格、日本のアニメへの興味など、本当にたくさんのことを知ることができました。この時、初めて心から分かり合えたと感じることができ、国籍や言語が違っても、楽しいという気持ちを共有すれば一気に友達になれるのだと思いました



さらに、アメリカの街での買い物の時間も最高に楽しかったです。家族や友達、そして自分へのお土産を選ぼうとショップを回りました。ショップではおしゃれなものや、日本では見かけないカラフルで可愛い雑貨が溢れていて、見ていだけでワクワクしました。お菓子のパッケージ一つをとってもデザインがとても素敵で、どれを買おうか迷ってしまうほどでした。

そして、行く前に少し心配していた食べ物についても、とにかく何を食べても美味しかったです。ハンバーガーやステーキのスケールの大きさなどに驚きました。それに現地の家庭料理やスイーツも、日本では味わえない豊かな美味しさがありました。現地の食文化を全力で楽しむことができたのも、良い思い出です。

今回の派遣事業を通して、私はたくさんのことを学びました。日本とアメリカの文化の違いを知ることは、どちらが優れているかということではなく、それぞれの国の良さを発見することなのだと気づきました。そして何より、直接会って話をする、同じ時間を共有することの楽しさを知りました。

この派遣で得た経験や、現地の方々との大切な出会いをこれからも心の糧にして、これからの英語の勉強に励み、将来はもっとコミュニケーションを自分から積極的に取れるような人になりたいです。

言語の壁を超えて

3年 伊藤 真菜

私は今年、ワイアンドットの派遣事業に参加しました。ワイアンドットでは、普段の生活なら絶対に得ることのできない、貴重な体験を数多く経験しました。最初は慣れない環境に対する不安がありましたが、最終的にはとても有意義な時間を過ごす事ができました。

今回の派遣事業を通し、最も印象に残っている事は、多くの人と交流できたことです。日本とは異なった場所で過ごしてきた人たちと関わっていく中で、自分とは違う価値観や考え方に触れることができました。

コミュニケーションでは言語が違い言葉が通じない中、上手に会話できるのかという不安や、バディーと上手くやれるのかという心配もありました。しかしお互いの共通点や語れる話題を見つけ、打ち解けることができた事で、とても楽しく過ごすことができました。実際に話してみることで、日本で学んでいる英語がどれだけ大切な教科なのかがとても身に染みました。また、1番心に残っているシチュエーションは、お土産をバディーに渡したときの反応です。私は主に、日本のお菓子や文具をバディーに渡しました。その際、とても笑顔でお礼を言われ、お互いに幸せな気持ちになれたと感じました。日本のお菓子の中では、抹茶味を1番気に入ってくれました。私も抹茶味のお菓子が1番好きなので、味の好みも同じで嬉しかったです。これらを通して言葉や文化が異なってもお互いに寄り添い合い、心から通じ合う事ができ、関わりをもつことが可能になることを体験する事ができました。



言語の壁を超えて

3年 伊藤 真菜

さらに、活動中はバディーと協力しながら行動する場面もありました。1人では難しい事でもお互いに声を掛け合いながら協力し、取り組むことができたので、とても楽しく終えることができました。また活動中に話した内容や、一緒に写真を撮った時間も、私にとっては一生の思い出であり宝物です。写真は形として残るものなので、たくさん撮れてよかったです。

今回のワイアンドット派遣事業を通して、人との関わり大切さや、自分から積極的に行動することの重要性を改めて学びました。私は普段から、自分が「したい」と思った事は、積極的に行動に移す方です。何故ならやらずに後悔はしたくないからです。挑戦しなければ何も始まらないし、何も得ることはできません。なのでワイアンドット派遣事業で、学んだことを日常でも生かし、悔いのない人生を送れるようにしたいです。また、今回このワイアンドット派遣事業に送り出してくれた家族や先生達、そして出会った全ての人に感謝し、自分の成長につなげていきたいです。出会いは一期一会です。今後も出会うすべての人に感謝し、大切にしていきたいと思います。



言葉を越えたつながり

3年 橋本 獅央

私は今回、ワイアンドット市派遣事業に参加して、たくさんのことを学び、とても貴重な経験をすることができました。出発する前は、英語でちゃんと話せるのか、現地の人と仲良くなれるのかなど不安なことがたくさんありました。しかし、実際に行ってみると毎日が新しい発見の連続で、とても楽しく過ごすことができました。

派遣事業では、現地の方々と一緒にボウリングをしたり、博物館を見学したりしました。ボウリングでは言葉があまり通じなくても、一緒に楽しむことで自然と会話が生まれました。博物館ではその地域の歴史や文化について学ぶことができ、日本との違いを知る良い機会になりました。実際に見たり聞いたりすることで、教科書だけでは分からないことをたくさん学ぶことができました。

また、現地の学校を訪問したこともとても印象に残っています。最初はとても緊張していましたが、生徒のみなさんが優しく話しかけてくれたおかげで、すぐに打ち解けることができました。英語がうまく聞き取れなかったり、自分の言いたいことが伝えられなかったりすることもありましたが、相手がゆっくり話してくれたり、分かりやすく伝えてくれたりしたので楽しく交流することができました。そのおかげでたくさんの友達を作ることができ、とてもうれしかったです。

私は日本からのお土産としてキットカットを持っていきました。みんなで一緒に食べたとき、とても喜んでもらえて、「ありがとう」と感謝してもらえたことが印象に残っています。日本では当たり前のお菓子でも、海外の人にとっては珍しいものだとなりました。お土産を通して日本のことを知ってもらえたこともうれしかったです。



言葉を越えたつながり

3年 橋本 獅央

また、現地での食事とても印象に残っています。ホームステイ中にステーキ店へ連れて行ってもらったのですが、その大きさには本当に驚きました。私は普段からよく食べる方ですが、それでも食べきれないほど大きかったです。味は日本の料理より少し塩味が強いと感じましたが、とてもおいしくて忘れられない思い出になりました。食事一つをとっても文化の違いを感じることができ、とても面白かったです。

その中でも、私が一番印象に残っているのはホームステイ先の庭で火を囲みながら話をしたことです。みんなで火を囲みながら話をしている時間はとても温かく、特別な時間でした。私は英語が完璧ではないので、自分の言いたいことがうまく伝えられないこともありました。しかし、ホストファミリーのみなさんは私の話を最後まで聞き、一生懸命理解しようとしてくれました。何度も聞き返してくれたり、分かりやすく話してくれたりしたことで、安心して会話をすることができました。その時に私は、英語が完璧でなくても相手に伝えようとする気持ちと、相手を理解しようとする気持ちがあればコミュニケーションはできるのだと感じました。そして、現地の方々の優しさや温かさを強く感じることができました。

今回の派遣事業を通して私が一番学んだことは、大切なのは完璧な英語を話すことではないということです。もちろん英語の勉強は大切ですが、それ以上に自分から挑戦することが大切だと思いました。間違えることを恐れて何もしなければ何も始まりません。しかし、勇気を出して話しかけたり行動したりすることで、たくさんの人と関わることができ、多くの経験をすることができました。

私はこの派遣事業に参加して、多くの人の優しさに触れ、自分とは違う文化や考え方を知ることができました。そして、自分自身も以前より積極的になれたと感じています。今回出会った友達やお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからもさまざまなことに挑戦していきたいです。また、今回学んだ「まずは挑戦してみることを大切にして、学校生活や将来にも生かしていきたい」と思います。この派遣事業での経験は、私にとって一生忘れることのできない大切な思い出になりました。



宝物の5日間

3年 長橋 月乃

私は、自分の英語スキルを上げたい、今の英語能力がどれくらい通用するのかを試したい、自国とは違う文化や生活に触れることで自分の考え方を変えたいと思い、この派遣事業に参加しました。初めての海外体験に加えて、家族や友達と離れて生活するとなると、不安や緊張もありましたが、未知の世界へ飛び込むワクワクした感情の方が大きかったです。色々な気持ちを抱えて臨んだワイアンドット派遣事業は、想像を超えるほど有意義なもので、5泊7日の旅はあっという間に過ぎていきました。そんな中、特に印象に残っていることが2つあります。

1つ目はホームステイです。私のホストファミリーの方は本当に優しい方で、温かく私を受け入れてくださいました。家族のように接してくれたのがすごく嬉しかったのを覚えています。ホストファミリーは、みんな日本のことが大好きで、日本から持って行ったお菓子や手ぬぐいなどのお土産を喜んで受け取ってくれました。また、私が食事の際に言っていた「いただきます」や「ごちそうさま」などの日本の挨拶にも興味を持ってくれて、一緒に言う練習をしました。日本の文化が愛されていることを実感し、胸が温かくなりました。ホストファミリーとの言語の壁はありましたが、英語が上手く聞き取れない私のために、ゆっくり話してくれたり、ジェスチャーを使って伝えようとしてくれました。最初は英語を間違えるのが恥ずかしいから、という理由で翻訳機に頼りっぱなしの私でしたが、日にちを重ねるにつれ、間違ってもいいから自分の言葉で伝えてみよう！という考えになりました。頑張ってみると、バディに「あなた英語が上手だね！」と褒めて貰えて、言ってよかったなと思いました。自分の力で話そうとすることで、どんどん会話の頻度が増えていき、より仲を深めることができました。ホストファミリーとは一緒に映画を見たり、ゲームをしたり、ショッピングをしたりと数え切れないほどの思い出があります。ホストファミリーがいたからこそ楽しめた5日間だったと改めて感じています。またいつか会いに行って、恩返しをしたいなと思っています。



宝物の5日間

3年 長橋 月乃

2つ目は学校体験です。私のバディは16歳の高校生だったので、ルーズベルト高校という所に体験に行きました。日本との違いを1番感じたのはこの学校体験でした。最初は、授業スタイルや学校の大きさ、生徒の服装や生徒と先生の距離感など、何もかもが日本と違う学校に驚きを隠せませんでした。私は、バディが選択していた理科、歴史、国語、数学、フランス語、心理学の授業を受けました。1時間目の理科の先生はとても陽気な方で私を歓迎してくださいました。その先生は、金曜日に理科の授業がある場合、オレンジ色のものを身につけて学校来なさいと生徒に言っているようです。私が行った日は金曜日だったので、バディからオレンジ色の服を借りて学校に行きました。理科室はどこを見てもオレンジ色で、授業を受けている生徒もみんなオレンジ色の服を着ていました。私の服装をみんなや先生が褒めてくれたのがとても嬉しくて、心に残っています。数学や歴史の授業は内容が難しいから、校内ツアーをしよう！とバディが誘ってくれて学校内の色々な教室を紹介してくれました。その際出会った先生方やバディの友達とも仲良くできて嬉しかったです。どの教科もラフな感じの授業スタイルだったので、緊張することもなく、楽しい1日を過ごせました。



このように、ワイアンドット派遣事業を通して、日本との文化や生活の違い、新しい発見や気づきをたくさん得ることができました。このような体験をできたことを誇りに思っています。感じたことや学んだことをここで終わらせるのではなく、これからの私の人生に生かしていきたいです。



私がアメリカに行って学んだこと

3年 熊谷 愛菜

私がワイアンドットのホームステイ派遣事業に参加して学んだこと。アメリカに着いた当初は、海外での生活や英語での会話に不安があり、うまくコミュニケーションが取れるのか心配でした。しかし、実際に生活してみると、不安よりも楽しさや発見の方が大きく、とても貴重な一週間になりました。ホストファミリーの方々が温かく私を受け入れてくれたおかげだと思っています。ホームステイ先では、家族全員が私を家族の一員のように受け入れてくれました。あまり聞き慣れないスピーディーな英語に戸惑ってしまい、最初は英語が聞き取れませんでした。1番大変だったことは、自分の言いたいことがうまく伝えられなかったことです。しかし、ホストファミリーの方々は私が理解しやすいようにゆっくり話してくださったり、ジェスチャーを交えながら会話してくれました。私が伝えたいことを真剣に聞いてくれて、理解しようとしてくださったことがとても嬉しかったです。そのおかげで、間違いを恐れずに自らたくさん話しかけることができました。

ホストファミリーとの1番の思い出は、一緒に食べた食事の時間です。日本では静かに食えることが多いですが、ホームステイ先では食事中にたくさん話しかけてくれたり、色々な食べ物を食べさせてくれました。とても楽しく明るい雰囲気食べる食事は、ものすごく美味しかったです。学校のこと、バディの子が好きな物、日本の食文化、世間話などたくさんコミュニケーションをとることは、とても貴重な体験になりました。特に自分の国について英語で説明する経験は、とても不思議な感じがして、新鮮でした。また、アメリカの文化を知るだけでなく、自分自身も日本について深く考えるきっかけになりました。



私がアメリカに行って学んだこと

3年 熊谷 愛菜

アメリカの学校体験も強く心に残っている思い出の一つです。学校ではたくさんの生徒が話しかけてくれて、興味を持ってくれました。その中で、学校でとても印象に残った出来事がありました。ある女の子が自分から「こんにちは」と日本語で話しかけてくれました。その子は日本が大好きで、日本のアニメをよく見ていると言っていました。さらに、

「将来は日本でアイドルになりたい」と話し、日本語のオリジナル曲を実際に歌って踊ってくれました。とても上手くて感動しました。私は外国で日本の文化がこんなにも愛されていることを初めて実感し、とても嬉しい気持ちになりました。同時に、日本のアニメや音楽には、人の心を動かす力があるのだと感じました。この経験を通して、自分の国の文化をもっと大切にしたいと思うようになりました。アメリカに行ったことによってもっと自分の国を大好きになれるようになりました。和食も、アニメも、音楽も、日本には素晴らしい文化がたくさん溢れていて、それは全て日本の宝のように大事にしていくべきだと思いました。こんなに日本を好きだと思ってくれる子がいて、自分の心も動かされました。

このホームステイを通して、英語は完璧でなくても「自分から伝えようとする気持ち」が大切だと実感しました。一生懸命に伝えようとする気持ちはきっと届くということを身近に感じた経験でした。文法が間違っているとしても、単語だけでも、頑張って伝えようとするれば相手は理解しようとしてくれます。その経験から、自分から伝えることの大切さ、相手の言葉を聞き取ろう、理解して受け取ろうとすることの大切さを深く学ぶことができました。最終日には少し名残惜しいような寂しい気持ちになりました。ホストファミリーの方々が良くしてくれたおかげで、この1週間、充実した時間を過ごすことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。温かく見守ってくれた皆様には、とても感謝しています。これまで支えて下さった市役所の方々、ありがとうございました。皆様が支えて下さったおかげで普段は体験することのない素敵で貴重な経験と思い出ができました。これからもこの経験を大切に、活かして将来に繋げていきたいです。



感謝を伝えることの大切さ

3年 満身 杏葉

「『ありがとう』を欠かさない」

これは、ワイアンドットの皆さんと接する中で私が強く印象に残っていることです。

それを一番感じたのは、学校体験でのことでした。私はただ1日アメリカの学校を体験しに行っただけなのに、みんなから「今日は来てくれてありがとう」という言葉が絶えませんでした。どんなことにも感謝を忘れないことに、私は心が震えました。今までは自分は普段から感謝を伝えている方だと思っていましたが、アメリカに行ってから、もっと素直に自分の気持ちを伝えても良いのだなと思うようになりました。

しかし、なぜ彼らは感謝を欠かさないのでしょうか。私は、それはアメリカの環境にあると思います。まず、空が絵に描いたように青く、澄み切っているのです。そして悠々と広がる広い芝生に、美しい街並み。鼻に抜ける爽やかな空気。なにか日本で普通に過ごす上では感じられないものが、私の心を豊かにしてくれました。あの町の匂い、自然、音を思い出すと、日常の小さなストレスがどうでもいいと思うようになります。世界はこんなにも広くて、美しい物に溢れているのに、なぜ私はこんなちっぽけなことに大切な人生を費やしているのだろうと思います。そうすると自然と、今の自分がいるという感謝をしようとするのです。これは、実際にあの場所に行かないと気づけないことだと思います。

次に、何より彼らの紡ぐ言葉には全て感情が込められています。今までなんとなく応答のように使っていた部分もあった「ありがとう」も、ワイアンドットの皆さんが発すると、本当に心から思っているのだなとひしひしと伝わり、お互いが幸せになります。こんなにも難しいことを普段から当たり前のように行う彼らに、私はとても憧れを抱いています。



感謝を伝えることの大切さ

3年 満身 杏葉

慣れない英語で一部しか聞き取れなかったり、うまく表現できなかったり、翻訳ばかり使っていました。それでも、違う言語を使い違う人生を歩んできた人でも心が通じ合うと喜びを感じ、感謝をされると幸せな気持ちで一杯になることに胸が熱くなりました。

このわずか五泊七日で、私は生きる上でかけがえのない大切なことを学びました。感謝に対する考え方、人生との向き合い方でさえも変えさせられました。現代は調べれば何でも出てくる時代で、遠い国々の人同士でも簡単にリアルタイムでコミュニケーションを取ったり、共感したりすることも可能にしました。しかしながらこの経験は、間違いなく日本にいては経験できないですし、お金で買えるものでも決してありません。

私は、アメリカという遠い国と私を繋いだこの事業に携わって頂いたすべての方々に心からの感謝を伝えたいです。本当に有り難うございました。



ワイアンドットの温かな日々

引率 小牧中学校 若原 祐太

1. はじめに

本報告書は、小牧市・ワイアンドット市中学生海外派遣事業における生徒たちの活動の記録と、引率教員としての総括をまとめたものである。本事業は、次代を担う生徒たちが実際に現地へ赴き、異文化に直接触れて言語の壁を越えたコミュニケーションの意義を学ぶとともに、両市の長きにわたる強固な友好関係を肌で感じることを目的としている。引率するにあたり、私自身も久々の海外渡航およびアメリカでの指導に対して一抹の不安を抱えていたが、生徒たちにとってこれほど特別で得難い経験ができる機会を最大限に活かし、彼らの成長を全力で支援すべく気を引き締めて臨んだ。

2. 活動報告

【第1日】出発から現地への移動、およびホストファミリーとの対面

初日、小牧山付近に集合した生徒たちは、保護者や見送りの方々との別れを惜しみつつも、これからの活動に対する期待と不安が入り混じった表情を浮かべていた。バスで名古屋駅へと向かい、新幹線で品川駅へ、さらに在来線へ乗り換えて羽田空港へと移動した。重いスーツケースを抱えての満員電車での移動などに疲労も見られたが、アメリカでの新たな生活への希望を胸に前向きに取り組んでいた。羽田空港からデトロイトまでは約12時間にも及ぶ長時間のフライトであった。飛行機搭乗が初めての生徒や長距離移動の経験がない生徒も多く健康面が心配されたが、それぞれが移動時間を楽しみ、機内での時間を共有することで生徒同士の親睦が深まっていく様子が見受けられた。機内では英語を話す客室乗務員とのやり取りに苦戦する姿が見られたものの、入国審査に向けて直前に自ら英会話の予習を行うなど、主体的に取り組む姿勢が表れていた。無事に入国し、バスで1時間弱移動してワイアンドット市のダウンタウンに到着した。ハンバーガーショップにて、現地コーディネーターのジェイソン氏とエリカ氏から笑顔で心温まる歓迎を受けた。店内には生徒のネームプレートが用意され、現地のペア生徒（バディ）と向かい合わせに座れるよう細やかな配慮がなされていた。バディとの初対面では極度の緊張から沈黙する生徒もいたが、徐々に打ち解け、翻訳機を活用しながらコミュニケーションを図る姿が見られた。併設されたゲームコーナーで共に楽しい時間を過ごした後、各ホストファミリーの出迎えを受け、それぞれのホームステイ先へと向かった。

ワイアンドットの温かな日々

引率 小牧中学校 若原 祐太

【第2日】ワイアンドット市内見学および市役所表敬訪問

翌朝、ルーズベルト高校に集合した生徒たちは、派遣団員同士で日本との違いや各家庭での過ごし方について楽しそうに情報交換を行っていた。時差ボケや慣れない環境からの睡眠不足を訴える生徒もいたが、体調不良者を出すことなく全員が揃って活動を開始できた。現地校の生徒からの積極的な声掛けにも笑顔で応じるなど、順応性の高さが伺えた。午前中は市役所を表敬訪問した。市長をはじめとする多くの市職員の方々から手厚い歓迎を受け、朝食やワイアンドット市にちなんだ記念品までご用意いただいた。議場では特別に議長席や議員席に着席して記念撮影を行い、併設のケーブルテレビの撮影スタジオでは、生徒一人ひとりがカメラに向かってコメントを収録するという貴重な体験をした。さらに、市役所内のオフィスを巡り、各部署の業務内容について詳しい説明を受けた。その後、市役所周辺のモニュメントを見学した。近隣の駐車場には、パトカーや消防車など、公共サービスに関連するさまざまな車両が特別に展示されており、日本とは異なる車両に直接触れる体験に生徒たちは大いに歓喜していた。続いて、卒業式などのセレモニーにも使用されるアイスホッケーのアリーナを見学した。日本では馴染みの薄い施設であるが、実際にアリーナで軽く体を動かすことでリフレッシュしていた。昼食にはピザ作り体験を行い、自ら苦戦しながら焼き上げたピザを堪能した。また、バディへのお土産用としてカップケーキのデコレーションも体験した。午後はキャンディショップを訪問して珍しい現地のお菓子の詰め合わせを楽しみ、ギフトショップでは限られた予算内で何を購入すべきか真剣に悩むなど、充実した時間を過ごした。その後、ミシガン川の河畔へ移動し、対岸に広がるカナダの景色を肉眼で確認した際には、違う国が見えることに深い驚きと感銘を受けていた。



【第3日】現地校での学校体験およびスポーツ観戦

この日は、バディと共にウィルソンミドルスクールおよびルーズベルトハイスクールへ登校し、丸一日現地の学校生活を体験した。まず訪問したウィルソンミドルスクールでは、学校内の至る所に生徒の学習意欲を高めるポジティブな言葉が掲示されている点が非常に印象的であった。また、小牧市から贈られた日本製の記念品が展示されているコーナーが設けられており、現地の生徒が日常的に日本文化に触れられる環境が整備されていた。授業見学では、特に音楽の授業の質の高さに驚かされた。生徒たちは小学校年代から楽器の練習を積んでおり、中学生でありながら吹奏楽部のように高度な合奏を行っていたうえ、専用の音楽ホールが完備されているなど、芸術教育への注力度が伺えた。また、朝7時40分始業、授業間の休憩時間がわずか4分、昼食時間が30分というタイトなスケジュールにも驚かされたが、その分放課後の時間が確保され、クラブ活動に専念できる環境が整っていた。屋内プールや充実した体育館などの設備も目を見張るものがあった。小牧市の生徒たちは、授業の進め方や雰囲気の違いに戸惑いながらも、バディに教えてもらいながら懸命に授業に参加していた。続いてルーズベルトハイスクールを訪問した。ここではその広大な敷地と規格外の設備に圧倒された。敷地内には2つの体育館、屋内プールに加え、屋外には陸上トラック、アメリカンフットボール場、さらには練習専用グラウンドまで完備されていた。総合高校のように、自動車整備の実習室、ガーデニング用の温室、3Dプリンターを用いた建築実習室など、生徒の興味に応じた多様な選択科目が用意され、各々がのびのびと学べる学習環境が構築されていた。また、生徒がTシャツなどを制作・販売する場所も設けられていた。中学生の生徒たちには学習内容が難しい部分もあったが、高校生バディが巧みにリードしてくれたおかげで、日本との違いをむしろ楽しんでいる様子であった。一旦帰宅した後、夕方からはスクールバスに乗り込み、メジャーリーグ（MLB）の観戦へ向かった。異例の寒波の到来により非常に厳しい寒さの中での観戦となったが、観客を盛り上げる本場アメリカのスポーツエンターテインメントの熱気を肌で感じる事ができた。野球のルールを知らない生徒も含め、球場全体の雰囲気を存分に満喫していた。



【第4日】歴史学習（ヘンリーフォードミュージアム見学）

バディと共にスクールバスで、アメリカ最大級の博物館複合施設であるヘンリーフォードミュージアムを訪問した。館内にはリンカーン大統領の椅子や、ケネディ大統領の乗車車両など、歴史的価値の高い展示物が多数収蔵されていた。また、屋外のヴィレッジエリアでは、エジソンの研究所をはじめとする歴史的建造物を見学した。生徒たちは説明に真剣に耳を傾け、アメリカの歴史に深く触れる貴重な学習の機会となった。

【第5日】ホストファミリーとの交流およびフェアウェルパーティー

日中は、各ホストファミリーと共にお土産を買いに出かけたり、遊びに連れて行ってもらったりと、残りわずかとなった現地での休日を有意義に過ごした。夕方からは、ルーズベルト高校のカフェテリアを貸し切り、フェアウェルパーティーが開催された。小牧市の生徒たちが自ら企画した「箸を使って日本のお菓子を皿から皿へ移すゲーム」をバディと一緒に楽しんだ。これは現地の方々から想像以上の大反響を呼び、その後お菓子も振る舞われ大変好評であった。その後、生徒一人ひとりが特技披露の時間を持ち、現地の方々と一緒に折り紙を折ったり、ピアノ演奏やバトントワリングを披露したりと、緊張の中でも一生懸命に取り組んだ。バディのみならずホストファミリーも含めて交流を深める良い機会となった。

【第6日】帰国の途へ

いよいよ別れの朝を迎えた。集合した生徒たちの表情からは、すでに深い寂しさが滲み出ていた。バディやホストファミリーとの別れの瞬間には、こらえきれずに涙を流し、別れを惜しむ姿が多数見受けられた。この光景こそが、今回の派遣事業が生徒たちにとっていかに充実し、大きな経験であったかを明確に証明していた。



3. 総括および引率教員としての所見

(1) 両市の強固な友好関係と温かなホスピタリティ

本事業を通じて最も驚かされ、深い感銘を受けたのは、ワイアンドット市民の皆様的心温まる歓迎とおもてなしの精神である。行く先々で恐縮してしまうほどの温かい対応を受けた。これは、長きにわたり小牧市とワイアンドット市が互いに素晴らしい友好関係を築き上げてきた歴史の確かな賜物である。

(2) コミュニケーションの本質と生徒の成長

生徒たちの様子から、「話したい、コミュニケーションを取りたい」という強い思いがあれば、国籍は関係ないということを改めて実感した。国境を越えて友情を育む生徒たちの姿は非常に素敵であった。現代では翻訳機等のツールが普及し、コミュニケーションの取り方は時代と共に変化している。しかし、自分の言葉が相手に伝わった瞬間の嬉しさや、うまく伝えられないもどかしさを生身で経験したことは、本事業に参加しなければ決して得られないかけがえのない財産である。

(3) 今後の教育現場への還元と展望

私自身もかつて中学時代に地元の海外派遣事業に参加したことが大きな契機となり、英語に関わる現在の職業を志した。今回の引率を通じて、英語科の教員として、海外の方と積極的にコミュニケーションを図れる生徒を育てていくために、今後どのように指導を展開していくべきか考える重要なきっかけとなった。今回の経験が、参加した生徒たちの今後の人生に素晴らしい影響を与えることを願っている。また、参加した生徒たちの間に芽生えた友情や、小牧市とワイアンドット市間の素晴らしい関係が、今後さらに発展し続いていくことを切に願う。本事業の実施にあたり、多大なるご支援・ご尽力を賜りました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



ワイアンドット市との交流の歴史

引率 応時中学校 井上 祥子

1 1時間半のフライトを経て私たち派遣団はワイアンドットに到着しました。集合場所は地元の人たちご用達のハンバーガーレストランで、店内にはアーケードゲームが置いてあり、いかにもアメリカらしい装飾がたくさんしてありました。生徒たちは、そんな店内の様子にわくわくし、アメリカ滞在に期待をふくらませていました。バディが合流してからは、スマートフォンを駆使し、お互いの好きなことなどを共有したり、アーケードゲームをしたりして、1日目のホームステイが始まりました。

滞在2日目は、ワイアンドット市の市長を表敬訪問し、市庁舎内やダウンタウンエリアを案内していただきました。昼食には自分たちでピザを作る体験をしました。準備されていたピザ生地と伸ばし、トッピングをしました。その後、カップケーキのデコレーションを行いました。後でバディとシェアすることを考えながら、フロスティングの塗り方を工夫したり、飾りのチョコレートスプリングルを活用したりして各々が個性的なカップケーキを作りました。



滞在3日目、生徒たちは1日授業体験をしました。自分のバディが受ける授業を、中学校・高校で1日受けました。フランス語、スペイン語、コーディングやマーケティングのクラスなど、日本の中学校にはない授業を受けた生徒もいました。音楽の授業については、日本と同じようにコーラスもありますが、バンドといってオーケストラのようなことを行っている授業もありました。生徒の一人はこのオーケストラに参加させてもらい、リコーダーの演奏をしました。この日は金曜日で、カジュアルフライデーといって、多くの生徒や先生たちがとてもカジュアルな服装で登校していました。クラスによっては、「オレンジ色を着てくる」というテーマが与えられているものもあり、バディと共にオレンジ色の服を着て授業に参加している生徒もいました。1日英語で授業を受けたため、授業後はみんな疲れた表情でしたが、同時に充実した顔をしていました。日本とは違うスタイルの授業に参加できたことは生徒たちにとって貴重な体験だったと思います。

ワイアンドット市との交流の歴史

引率 応時中学校 井上 祥子

生徒たちが1日授業体験をしている間、私たち引率者も中学校・高校内を案内してもらい、授業の見学もさせていただきました。印象的だったのは、授業の種類の豊富さです。特に高校には非常に様々な授業があり、施設も充実していました。車の整備をする授業では、実際に修理が必要な車を使って、何が問題なのかを見つけ修理をするということをしていました。コンピュータを使ってデザインしたものを3Dプリンターで作成する授業もありました。植物を育てるための温室も備えており、そこで育てた植物を生徒たちが販売する授業もあるそうです。生徒のさまざまな興味・関心に対応するよう、多様な授業があることに感心しました。

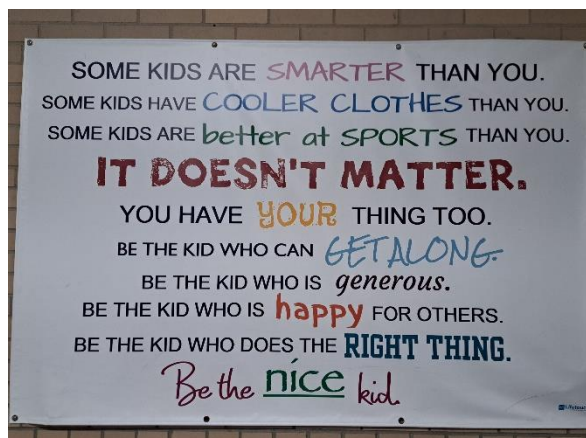
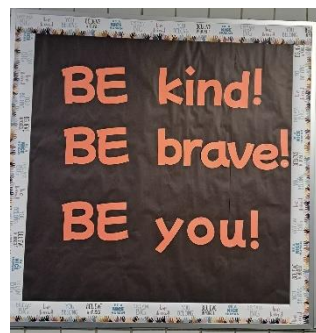
もう一つ印象的だったのは、校内に前向きな言葉がたくさん掲示されていたことです。特に中学校でその傾向が強く見られました。

"BE kind! BE brave! BE you!" (親切でいなさい! 勇敢でありなさい! あなた自身でありなさい!), "it's okay to ask for help" (助けを求めてもいいんだよ), "you are doing the best you can" (あなたは自分ができる最善を尽くしている)などの言葉が校舎内のいたるところに掲示されていました。

その中でも、例に挙げた"BE you"に始まり、

"you are worthy"(あなたには価値がある)

"you are amazing"(あなたは素晴らしい)など、ありのままの自分でいいんだよというメッセージが多く見られたことが非常に印象的でした。思春期という多感な時期の生徒たちが、自信をもって自分自身を好きでいられるように、このようなメッセージを掲示しているのだと思いますが、大変素敵な取組だと思いました。



ワイアンドット市との交流の歴史

引率 応時中学校 井上 祥子

放課後は、デトロイトにあるコメリカパークヘメジャーリーグの野球観戦へ行きました。球場には演出の仕方も含め、大人も子どもも楽しめる仕掛けがたくさんされており、野球がよくわからない生徒たちも観戦を楽しんでいました。ゲーム後に行われる週末限定の花火も非常に素敵でした。

滞在4日目、グリーンビレッジという博物館や農場、さまざまな古い建物が展示されている施設へ行きました。博物館には、多くの汽車や車、ローザパークが乗ったバス車両、元ケネディ大統領が使用していた車両など、多岐にわたる展示物がありました。エジソンが実際に使っていた実験施設も移設されており、正に明治村のような施設でした。生徒たちはバディたちと親交を深めながら施設見学をしました。

滞在5日目、夕方まで生徒たちはそれぞれのホストファミリーと一緒に過ごしました。夕方からは、ルーズベルト高校で送別会を開いていただきました。送別会では、ホストファミリーたちと夕食を食べながら交流し、小牧の生徒たちが企画したゲームと出し物を行いました。「日本のお菓子を紹介したい」「箸の使い方を知ってほしい」という思いから、バディとペアになって箸でお菓子掴みをするゲームを行いました。箸使いになれないバディたちは苦戦しながらも楽しんでゲームに参加していました。個別の出し物では、ピアノ演奏、リコーダー演奏、マジック、折り紙体験、サッカー技披露などを行いました。慣れない英語での説明や観客を前にした発表に対して、会場の雰囲気は常に温かく、それぞれの出し物に対して、ホストファミリーたちは大きな称賛をくれました。送別会は小牧の生徒たちにとって、ホストファミリーや職員に対して感謝を伝える場となったと共に、日本文化の一部を伝える良い機会となりました。

最終日の朝は、たくさんの別れの涙がありました。別れを惜しめるほどバディとの親交を深めた生徒がいたことは大変喜ばしいと思いました。また、家族の一員として温かく生徒たちを受け入れてくれた各ホストファミリーには感謝しきれません。最初はお互いスマートフォンの翻訳機能を使い、訳したものを見せ合うやりとりをしていた生徒たちも、日を追うごとに自分の言葉で相手に伝えることが増えてきました。外国語であっても、コミュニケーションにおいて、自分の言葉で伝えるということが重要だと感じています。今回得たバディやホストファミリーとの繋がりを保つためにも、自分の言葉で伝えることを大切にしていってほしいと思います。

ワイアンドット市との交流の歴史

引率 応時中学校 井上 祥子

今回の滞在で最も印象的だったのは、ワイアンドット市がこの交流プログラムに非常に献身的だったことです。現地のコーディネーターの方たちはもちろん、市の職員の方たちも私たち派遣団のためにさまざまなことを準備してくださっていました。市長と交流する時間を作っていたり、市庁舎内を案内してくださったりし、市からもたくさんのお土産をいただきました。一番驚いたのは、私たちだけのために、消防車やパトカー、水道局が使う吸引車など、市が保有する公用車を広場に集めてくださったことです。それぞれの車両に乗せてくださったり、どのように使われているのかを説明してくださったりしました。たった14人の派遣団の私たちのためにそこまでしてくださるホスピタリティに感動を覚えました。



今回のプログラムに参加して、ワイアンドット市と小牧市の親交の歴史を肌で感じることができました。中学校と高校を1日訪問した際も、多くの職員の方が過去に小牧からの生徒や教員をホームステイさせたことがあると教えてくださいました。中にはご自身が派遣団の一人として小牧に来たことがあるとお話してくださった方もいました。また、過去に生徒として小牧に派遣された方たちが送別会に顔を出してくださっていました。ホストファミリーや職員の方たちのホスピタリティからも、ワイアンドットの方たちがこの交流プログラムに非常に好意的で、私たちとの交流を大切にしてくださっていることが、滞在中のさまざまな場面で感じられました。これまでこの交流プログラムに関わってきた方々が、相手に尊敬の念をもち、お互いに対して真摯に向き合うことを積み重ねてきた結果、今もワイアンドット市と小牧市の交流が続いているのだと思います。そのことに感謝すると同時に、歴史ある交流プログラムに自分も参加できたことを誇りに思います。短い期間ではありましたが、私自身、自分のホストファミリーやワイアンドットの職員の方たちと素晴らしい交流をすることができました。いただいたご縁を大切にすると共に、今後もこの交流プログラムが有意義なものとして継続していくよう、関わっていけたら幸いです。

滞在先は違いますが、私自身も中学生の時、小牧市の海外派遣プログラムに参加させていただきました。その時の経験が英語を学ぶ姿勢や自分の進路に大きな影響を与え、自分の視野を広げました。中学生の時に海外でホームステイを経験できるのは、滅多あることではありません。今回の交流プログラムが、参加した生徒たちの視野を広げ、彼らの今後の生き方に前向きな影響を与えたものであることを願ってやみません。